

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

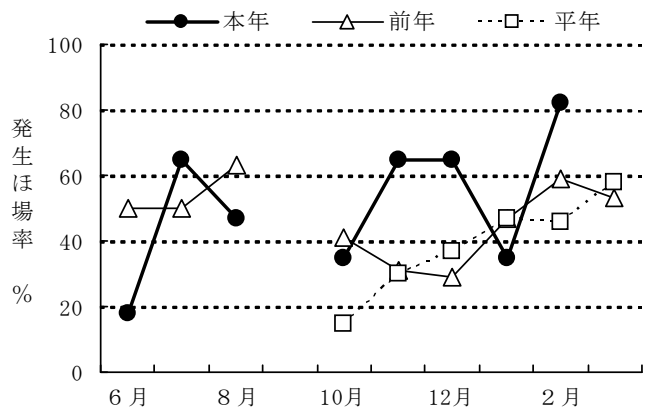
平成20年度 技術情報第18号(イチゴのハダニ類)について (送付)

イチゴのハダニ類について情報を取りまとめましたので送付します。

平成20年度 技術情報第18号

ハダニ類の発生が2月に入り急増しています。向こう1か月の天候は、気温が高いと予報されており、今後もハダニ類の増加が予想されるので、防除を徹底してください。

- 1 対象作物 イチゴ
- 2 対象病害虫 ハダニ類
- 3 予報内容
 - (1) 発生地域 県本土
 - (2) 発生量 多
- 4 予報の根拠



- (1) 2月の巡回調査では、発生ほ場率が82% (平年46%) と平年よりも高く、多発ほ場も多く認められた。
- (2) 向こう1か月の気温は、高いと予報されており、発生しやすい条件が続くと予想される。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 発生ほ場では直ちに防除する。天敵導入ほ場でも、多発生ほ場が認められている。その場合、今後ハダニ類の増加を抑えることは困難と予想されるので、効果の高い化学薬剤で防除する (表2, 3)。
- (2) 防除効果を高めるため、薬剤は下葉かきを行ってから葉裏にかかるよう散布する。
- (3) 薬剤によっては感受性の低下が認められ、ほ場によって防除効果が異なるので、散布後は必ず防除効果を確認する。なお、ナミハダニが多く発生しており、本虫はカンザワハダニに比べて発見しにくいので、葉裏を注意深く観察する。
- (4) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。
- (5) 薬剤によっては、ミツバチに影響があるので薬剤の選定に注意する (農薬使用の手引き参照)。

表1 ハダニ類の発生状況(2月中旬調査)

調査場所	調査ほ場数	発生ほ場数	内甚または多発生ほ場数
日置市伊集院町中川	5	4(4)	1
さつま町湯田・平川	5	3(1)	1
志布志市有明町野神	7	7(3)	1
合計	17	14(8)	3

※() は天敵導入ほ場数

(参考)

平成19年度技術情報第8号(イチゴのナミハダニに対する殺ダニ剤の効果試験結果)より抜粋

表2 ナミハダニの卵に対する各種薬剤の殺卵効果(補正未ふ化率, 2006年11~12月採集)

供試薬剤名	希釈倍数	日置市伊集院町		さつま町湯田		志布志市有明町野神	
オサダンフロアブル	2,000	14		26		33	
コロマイト水和剤	2,000	92		76		100	
ニッソラン水和剤	2,000	71		30		15	
バロックフロアブル	2,000	0		99		99	
ピラニカEW	2,000	16		44		71	
マイトコーネフロアブル	1,000	80		83		99	
無処理	-	(9)		(4)		(3)	

注1) 各地点1ほ場から採集。

注2) 数値は, 3反復の平均値で示す。

注3) 補正死亡率は, 無処理区の未ふ化率で補正。

注4) () は無処理区の未ふ化率を示す。

表3 ナミハダニの幼虫に対する各種薬剤の殺虫効果(補正死亡率, 2007年5月採集)

供試薬剤名	希釈倍数	日置市伊集院町中川		さつま町湯田		志布志市有明町野神	
		2日後	7日後	2日後	4日後	2日後	7日後
アファーム乳剤	2,000	100	100	93	98	99	100
オサダンフロアブル	2,000	34	79	23	83	30	100
コロマイト水和剤	2,000	82	100	100	100	93	100
ニッソラン水和剤	2,000	0	0	11	71	44	49
バロックフロアブル	2,000	10	57	51	63	5	47
ピラニカEW	2,000	28	30	48	55	33	43
マイトコーネフロアブル	1,000	96	96	88	97	100	100
無処理	-	(15)	(18)	(1)	(1)	(3)	(5)

注1) 各地点1ほ場から採集。

注2) 数値は, 3反復の平均値で示す。

注3) 補正死亡率は, 無処理区の死亡率で補正。

注4) () は無処理区の死亡率を示す。